

古義真宗

丹波のカタス寺

櫻 厳 寺

りょうじんじ

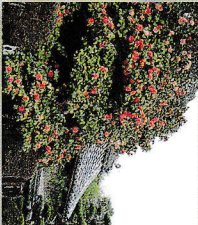
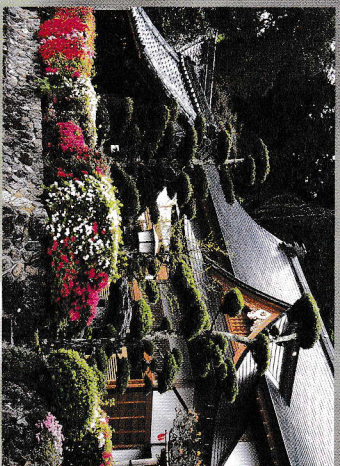


- 寺号 堀岳山 吉祥院 櫻厳寺
- 宗派 高野山 真言宗
- 本尊 薬師瑠璃光如来
- 本堂 本尊 薬師瑠璃光如来  
 日光・月光菩薩 十二神将

日本堂は元禄時代の建立であったが、柱等の主要部分が松材であった為、総体的に老朽化が甚しく、遂に全面改築となり平成十四年春着工し同十五年秋新本堂が完成した。本堂内陣は折り上げ格天井で檜敷九十六面の秋田杉の板に岩絵具で彩色された様々の花の絵が描かれている。画家は山鹿彦から直承八代目の円山慶祥氏とその弟子真祥氏である「瑠璃光華曼荼羅」が現出されている。

関西花の寺  
 二十五所

関西とて府内隈にわたる花が縁のお寺で、二十五か寺に咲く四季折々の花を訪ねる心の旅……。櫻厳寺はその第一番札所です。主な花は四月中、下旬のツバキ、ハス、五月から八月にかけて咲くハス、五月から八月にかけて咲くです。各札所には巡拝用の心華帖（朱印帖）もあります。



春は桜につじ花  
 夏は池中の蓮かおり  
 秋は紅葉に彩りて  
 冬は白光四季の揚厳

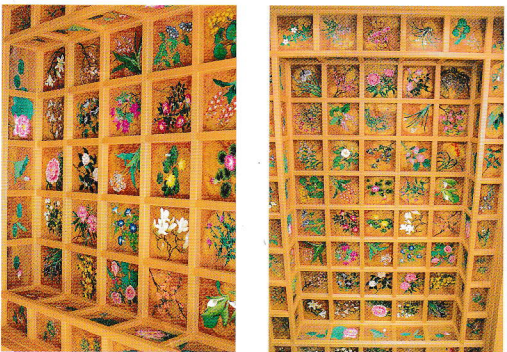
櫻厳寺の四季



12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
もみじ			連 (20数種類)		さくら	高津路		桜 (ノイタゴノ、ホクノ、松)	つじ (シロバナツツジ、平戸ツツジ、モキツツジ)	梅	
			百日紅								

● 縁起

櫻厳寺は奈良朝、聖武天皇の天平四（西暦七三二）年、林聖上人の開基である。以後幾多の時代の遷遷と再三の兵火により、寺坊は悉く焼失し古記、古文書等の多くが散逸し、歴代住職の事歴も不明のまま多くの年を経て、一七〇八年にかけて日本堂が完成されその本堂建立の時の住職、盛長法印を中興開山としている。尚これより五十年後の宝暦八（西暦一七五八）年に現在の庫裡が建築され漸く伽藍が整えられている。



本堂内陣天井絵





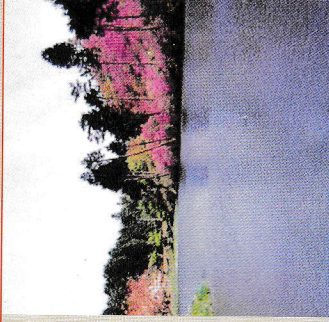
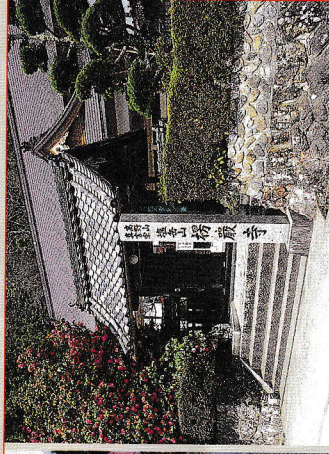
**水子地藏尊**  
「生命尊厳」の仏教教理に基づき、水子の霊をなくさぬため、昭和五十四(西暦一九七九年)春、檀越家、信徒の浄財によって建立された「全国水子供養寺八十八カ所」のひとつにも数えられている。

**不動明王像**  
本堂構の建物の中に、弘法大師、役ノ行者、白衣観音と共にまつられている。毎年、初弘法の一二月二十一日には、その前の広場で崇徳大藏摩訶那伽が盛大に行われ、たくさん参拝者でにぎわう。

**日限地藏尊**  
日教に限って様々な願いをかけること、不思議にかなえられることから、「鏡の日限地藏尊」として広く知られている。本堂入口の坂道にあることから、昔は「坂の地藏尊」と呼ばれていた。

**梵鐘**

嵯峨藩主九皇侯領内に時を知らせる鐘として寛政四(西暦一九二二年)鑄造。「同國天田郡福知山住 統領 物官鑄物師 足立 大和藤原重延」の銘がある。降藩後、嵯峨町が保管していたものを、昭和二十四(西暦一九四九年)当山に招致。表面には嵯峨大火の際、斧で乱打した傷跡が残る。



一禾 四季の鴉



**春**  
有雛の間...両親のカラスが巢にえさを運び、三羽のひなカラスをいっつくしみ育てている。カラスのオス、メスは、くちばしに特徴があるといわれる。

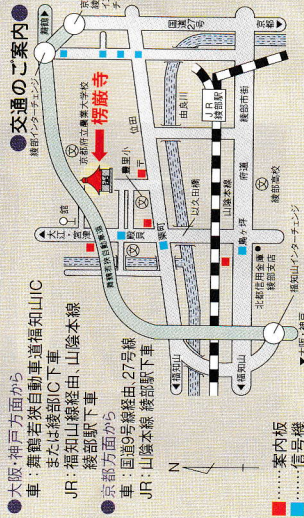
**秋**  
湖畔の鴉...湖のほとりで休息するカラスと、一方、川に通じる広大な空間を飛翔するカラスとである。静と動の対照である。

**夏**  
高野杉に鴉...高野山(和歌山県東北東部にある真言宗の霊地)の老スギとカラス。「鴉白鷺」といって、様々なカラスの姿が描かれている。

**冬**  
雪中反哺の孝...美立ちした三羽のカラスが、成長してから親に恩返しをする場面。「鳩に三枝の礼あり、鴉に反哺の孝あり」の故事に基づく。



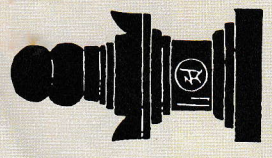
**長井一禾**  
明治二(西暦一八六九年)、新潟県水原町に生まれる。その後東京に出て、中野車明平福徳庵に師事し、門下派の画法を学ぶ。明治三十七(西暦一九〇四年)、当時、東京美術学校に招かれていたフェノロサ博士に見出され、博士の帰国と共に渡米。五年間滞在して、日本画の紹介を兼ね、洋画を研究。ポートランド大博覧会では名誉賞を受賞。帰国後、時にカラスの絵の技法が妙を得、非凡であることを賞賛され、大隅重信侯から「鴉博士」の称号を贈られる。当山には、昭和十二(西暦一九三七年)から翌年にかけて滞在。庫裏の四座敷に春夏秋冬のカラスの絵を描く。昭和十五(西暦一九四〇)年没。  
なお、弁財山の池の近くには、一禾画伯が全国各地で用いた筆を納めた筆塚がある。



関西花の寺霊場第2番  
嵯峨西国観音霊場第14番  
丹波のカカラス寺  
京都府綾部市館町  
(0773)47-0043 FAX(0773)48-0995

宝篋印塔

日限地藏堂前にあり、永正八(西暦一五二二)年の銘がある。可成り風化しているが歴史家には注目されている。頂上には九輪石は他の石に差っついていて、その窪みのところに溜っている水を身体に差ると御利益があるといわれ、すくいく利取つても後に不思議に溜つてくる所から霊水として信仰を集めている。



三古木 楞嚴寺境内

**椿**  
樹齢約四百年。正門横にあり、白赤、ピンクの咲き分けになっている。

**菩提樹**  
樹齢約五百年。初夏に白い花が咲き、後に球形の実(天きれば)ができて、数珠堂前真参道入口にある。

**百日紅**  
樹齢約四百年。一株から初代二代三代へと移り変わりかわかる。本堂石段を登りつめたところにある。